幸若かわら版

幸若舞の里づくり会
事務局　橋本守行
電話090-7746-8689

第　２２　号
令和　２年　１月　１日

幸若舞祝曲「浜出」

顧問・山口信嗣

山口信嗣氏

そも鎌倉と申すは、昔は一足踏めば、三町揺るぐ大分（だいぶ）の沼にて候ひしを、石切り、鶴の嘴をもって、高き所を切り平らげ、大分の沼を埋め給ふ。上八海・中八海・下八海とて三つに割る。上八海は山、中八海は在家、下八海は海なりける。上八海の一段高き所には、源氏の氏神正八幡大菩薩を崇（あが）め斎（いは）ひ奉る。

あらおもしろの谷々（やつやつ）や。春はまず咲く梅が谷、続きの里や匂ふらん。夏は涼しき扇が谷、秋は露草笹々目が谷、冬はげにも雪の下、亀が谷こそ久しけれ。

遥の沖を見渡せば、舟に帆かくる稲村が崎とかや。飯島・江の嶋続いたり。蓬莱宮と申すとも。かるが故に名付けて、歩みを運ぶ輩は、諸願かならず満足せり。ていとうの鼓の音、颯々（さつさつ）の釣の声々に、褌（ちはや）の袖を振りかざす、神慮すゞしめの御神楽の音は隙もなし。

浜出はまいで

かゝるめでたき折節、頼朝上洛ましく〳〵て大仏供養を述べさせ給う。

先ず初番の雑餉には、蓬莱山を絡組み、中には甘露の酒を入れ、不死の薬と名付け、銀の竿に金の鶴瓶を結さげ、撥ね鶴瓶にて是を汲む。酒にあまたの威徳あり。疎き人さへ近付き、親しき仲は猶親しむ。遠近の味はひはしゆみをなす。「誠に不死の薬ぞ」と、酔ひをすすめて参らする。

「出典『寛永版舞の本』三弥井書店一九九〇　本文中一部削除」

年頭に当り、幸若舞曲で最もめでたい曲を紹介しました。頼朝が奈良で大仏供養した祝いを鎌倉で行ない、祝うため江の島へ参詣（浜出）する曲です。「蓬莱山」の曲名でもあります。

幸若会新年会のお知らせ

恒例の幸若会新年会を下記の通り開催しますので万障お繰り合わせの上ご参加ください。

記

開催日時　令和２年１月２４日（金）午前１１時～
会　　場　「いと家」（市姫橋南詰）
会　　費　￥３，０００－(当日持参)
申し込み　藤川会員まで 34－0621または090－2127－4131 〆切１月１７日（金）

語り部の会は隔月（奇数月）第2金曜日です

朝日小学校で出前授業　11月29日

幸若舞に関する恒例の出前授業が１１月２９日朝日小学校の多目的ホールで６年生を対象に行われました。本年は、現代幸若舞の実演と越前幸若舞の創始者幸若丸の生涯を分かり易く語る「紙芝居」が行われました。幸若舞は小学生会員４名による短縮版が披露されました。紙芝居は、先年「にじの会」が製作したもので、プロジェクターで大きく投影して行いました。「語り」は青山会員が行い好評でした。後日、学校から感想文３３編が届きました。その一部は下記のようです。

朝日地区発祥 幸若舞学ぶ

越前町 児童、華やか現代版披露

現代版にアレンジされた幸若舞を披露する児童＝29日、越前町朝日小

越前町朝日地区が発祥の地とされ、織田信長ら戦国武将が愛好した曲舞「幸若舞」について学ぶ授業が29日、同町朝日小で行われた。6年生児童約70人が現代版の舞を見るなどし、郷土の歴史に関心を深めた。

幸若舞を子どもたちに伝えようと、地元住民グループ「幸若舞の里づくり会」が企画した。

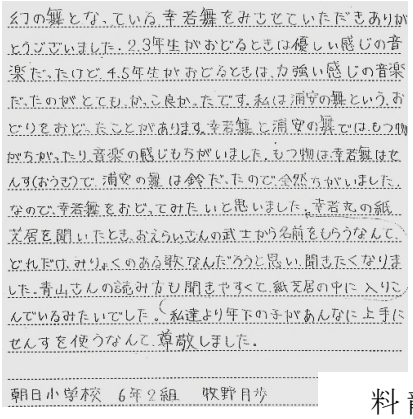
同地区での幸若舞は明治時代に途絶えたのち、2010年に同会の依頼で、宗生流剣詩舞道総本部（福井市）が現代版の舞を創作して〝復活〟した。この日は、宗生流剣詩舞道会あさひ少年教室のメンバーでもある同校3～5年生4人が、現代版の幸若舞を披露した。

舞を見た西野準音さんは、同地区の幸若舞の流れをくむ福岡県みやま市の大頭流幸若舞を本研修で学んだことがあり、「みやまは語りが多いが、きょう見た舞は華やか。違いがよく分かった」と話していた。

続いて同会メンバーが、現在の同町西田中に居を構えたとされる幸若舞創始者の桃井直詮を題材にした紙芝居を披露した。幼少期に西田中で田楽に親しんだことが幸若舞の土台になったというストーリーに、児童は聞き入っていた。（十生仁巳）

福井新聞
令和元年１２月１日記事

紙芝居の投影



幻の舞となっている幸若舞をみせていただきありがとうございました。2,3年生がおどるときは優しい感じの音楽だったけど4,5年生がおどるときは力強い感じの音楽だったのがとてもかっこよかったです。私は浦安の舞というおどりをおどったことがあります。幸若舞と浦安の舞ではもつ物がちがったり音楽の感じもちがいました。もつ物は幸若舞はせんす(おうぎ)で浦安の舞は鈴だったので全然ちがいました。なので、幸若舞をおどってみたいと思いました。幸若丸の紙芝居を聞いたとき、おえらいさんの武士から名前をもらうなんて、どれだけ、すばらしいのある歌なんだろうと思い、聞きたくなりました。青山さんの読みかたも聞きやすくて紙芝居の中に入りこんでいるみたいでした。私達より年下の子があんなに上手にせんすを使うなんて尊敬しました。

朝日小学校　6年2組　牧野月歩

明智光秀像
滋賀県旧坂本

第八二回幸若講座開催

第八二回幸若講座が、一一月二二日、会員一四名が参加して開催されました。テキスト第四一項「符牒餘録」（江戸幕府の公文書）の幸若家書上から四四項幸若諸家・幸若小八郎家までについて山口顧問の講義を受けました。一六八三年庶民の帯刀が禁止された。幸若家は音曲は余技で、本来は武士であるとして、帯刀を許可するように何度も嘆願したが、結局許されなかったことが記載されているとの説明がありました。

山口顧問の講義のあと、打波会員と木下会員から調査報告がありました。

打波会員からは、橋本左内の母・梅尾の出自について、系図を用いて大行寺など諸寺との関係や、藤野厳九郎との関係について言及されました。

また木下会員からは、明智光秀のルーツについて、越前国豪族山岸氏が関係しており、幕末の志士・坂本龍馬ともつながっているのではないかとたくさんの資料を駆使して説明がありました。

幸若忘年会を開催　　12月1日

木下美恵子氏の話題提供

熱心に聞く参加者

去る十二月一日、朝寿殿和室において恒例の忘年会が。会員十八名の参加を得て開催されました。

まず前半の部では、朝日ごみリサイクルネットワーク会長・木下美恵子氏に話題提供をお願いしました。同氏が鯖江市教育委員会勤務時代に、すたれかかっていた「やっしき」踊りを再興したことや、ごみのリサイクルも運動開始当時は、なかなか社会の理解が得られず苦労したこと、このような運動を盛り上げるのは、地域住民のエネルギーであり、役所のバックアップはその後のことである、というようなことを話されました。

後半は賑やかな宴会に移りました。ＦＢＣかがやき基金受賞が内定したことなども報告され、幸若会をはじめ地域運動の在り方について活発な議論がなされました。

楽しい宴会

当面の主な予定

１月１０日（金）	例会
１月１９～２１日	福岡みやま市訪問
１月２４日（金）	新年会
２月２８日（金）	第８３回幸若講座

朝日地区総合文化祭に出展参加

開会式

去る１１月２～３日、令和元年度朝日地区総合文化祭が開かれました。本年は生涯学習センターが補修工事中のため朝寿殿が会場となりました。当会では、会場ロビーでの幸若関係のＰＲ展示、ＤＶＤ上映や、現代版幸若舞の舞台発表を行いました。

ロビーでの展示

FBCかがやき基金 かがやき賞受賞

第八回ＦＢＣかがやき基金に応募したことと、経過については逐次本かわら版に掲載報告した通りですが、その後の経過については。次のようです。

全部で七三組のグループが応募し、一次選考で一五組、二次選考で五組が残りました。この五組の中に、幸若舞の会が入り、去る一一月一五日ＦＢＣで最終選考会プレゼンテーションが行われました。

このプレゼンテーションには、辻会長や松田会員を含め五人が参加しました。そして一二月一三日、最終選考発表と贈呈式が行われ、本会はかがやき賞・賞金一〇〇万円を受賞しました。

贈呈式のあと、選考委員会委員長・児嶋眞平氏（元福井大学学長）から、現代版幸若舞について、まちづくりの中心となることを期待している旨の講評がありました。

賞金一〇〇万円の使途について、ＦＢＣ側からの制約はなく、その有効活用について、広く会員の皆様方のご意見・ご提案をお願いします。

審査委員会

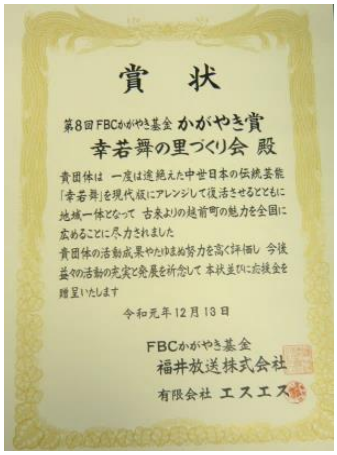
橋本会員のプレゼンテーション

贈呈式後に現代版幸若舞を披露

謝辞を述べる辻会長と橋本会員

プレゼンテーションや贈呈式、これら団体の活動状況については、さる１２月２８日（土）ＦＢＣＴＶで放送されました。

受賞関係者の記念撮影



賞　状

第8回 FBCかがやき基金 かがやき賞
幸若舞の里づくり会 殿

貴団体は 一度は途絶えた中世日本の伝統芸能「幸若舞」を現代版にアレンジして復活させるとともに地域一体となって 古来よりの越前町の魅力を全国に広めることに尽力されました
貴団体の活動成果やたゆまぬ努力を高く評価し 今後益々の活動の充実と発展を祈念して 本状並びに応援金を贈呈いたします

令和元年12月13日

FBCかがやき基金
福井放送株式会社
有限会社 エスエス

その他の受賞団体

かがやき大賞	（４００万円）	名田庄総合木炭生産組合（研磨炭製造技術）
準かがやき大賞	（２００万円）	ＮＰＯ法人・今庄旅籠塾
準かかやき大賞	（２００万円）	まるおか子供歌舞伎を支える会
かかやき賞	（１００万円）	ふくい桜守の会